



新着図書案内



2016年6月発行



『東京β 更新され続ける都市の物語』

東京の街は、常にその姿を変化させている。西側から東側へとアップデートされ続ける都市の変化を、映画や小説から読み解く、画期的な都市文化論。『scripta』連載に加筆し書籍化。

速水 健朗 // 著 筑摩書房



『美しい顕微鏡写真』

ミクロの世界が魅せる究極の造形美！ナノ粒子、ジカウイルス、住血吸虫、エイズの治療薬…。光学顕微鏡や電子顕微鏡で撮影した、物質やプランクトン、細胞、雪の結晶などの写真を紹介する。

寺門 和夫 // 監修 パイインターナショナル



『きみに贈る本』

私たちは何を読みどんな影響を受けてきたか。最強の「中二病」小説から、老舗の国語辞典まで、6人の作家が自身をふり返ってつづる、ユニークな読書案内。『中日新聞』『東京新聞』連載を単行本化。

中村 文則 // 著 中央公論新社



『江戸前魚食大全』

不安定な漁獲、保存と輸送の難しさから、江戸時代まで滅多に魚を食べられなかった日本人。食べられないからこそ何とかうまく食べたいという執念が江戸前魚食文化に結実し…。日本人なら知っておきたい江戸前魚食の歴史を紹介。

富岡 一成 // 著 草思社



『古き良き アンティーク文房具の世界』

目にする事のなくなった貴重な製品、遊び心あふれるユニークな道具、昭和レトロな学用品…。アンティーク文房具の魅力を豊富なビジュアルで紹介します。アンティーク文房具と出会えるショップ、イベント等の情報も掲載。

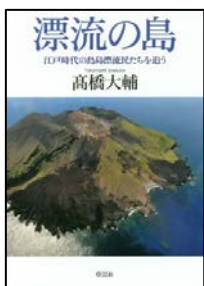
たいみち // 著 誠文堂新光社



『鯰絵で民俗学 その文化と信仰と』

「鯰は震源地へ行って、地震を起こす」という俗信はどこから言い伝えられたのか？ だれが鯰絵を描いたのか？ 鯰にまつわる民話や伝承、俗説を集め、鯰を民俗学の視点から捉え直し、鯰信仰の起源、鯰絵の謎などに迫る。

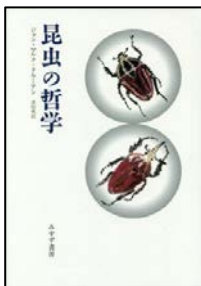
細田 博子 // 著 里文出版



『漂流の島 江戸時代の鳥島 漂流民たちを追う』

江戸時代、江戸から南へ約600キロの絶海の孤島、鳥島に、日本人漂流民が続々と流れ着いた。彼らを支えたのは、島から脱出した者たちが生活具や脱出の経緯などを残した洞窟だった…。壮絶なサバイバルと奇跡の生還劇に迫る。

高橋 大輔 // 著 草思社



『昆虫の哲学』

アリストテレス以来、人間は昆虫をどう考えてきたのか？ フェアブルとダーウィンを軸に、生物多様性、ユクスキュルの環境世界論、デリダの動物論まで論じる、刺激的な科学エッセー。

ジャン=マルク ドルーアン // 著 辻由美 // 訳 みすず書房

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。または出版社より許諾を得ています。



『歴史に見る日本の図書館 知的精華の受容と伝承』

従来の図書館・情報学において、とくに看過されてきた事項を取り上げ、日本の図書館が伝承してきた歴史や伝統、重要な業績を論述するとともに、今後の図書館のあるべき姿を考える。

高山 正也 // 著 勁草書房



『ナショナルジオと考える地球と食の未来』

世界の人口は、2050年までに90億人に達する。地球環境に負担をかけずに、十分な食料を確保できるのか。5つの提言から、世界の食の未来を考察する。『ナショナルジオグラフィック日本版』掲載を書籍化。

日経ナショナルジオグラフィック社

『日本髪大全』

日本の髪型の歴史を、時代考証をもとに再現された実際の結髪姿と共に解説。また、島原太夫や舞妓といった花街の女性たち、角界の力士など、現在も伝統的な日本髪を結って暮らす人々と、結髪文化を支える結髪師の技を紹介する。

田中 圭子 // 著 誠文堂新光社

『大人の西洋美術常識』

絵はいつから描かれている? 「モナ・リザ」のモデルは? ピカソの絵はデタラメ? 名画にまつわるエピソードや巨匠たちの生涯を、図解やイラストでわかりやすく紹介。鑑賞が何倍もおもしろくなる西洋美術講座。

トキオ ナレッジ // 著 宝島社

『この世界を知るための人類と科学の 400万年史』

ヒトの誕生から言語の獲得、古代ギリシャの哲学者、ニュートンやアインシュタイン、量子の奇妙な世界の発見まで、科学研究という営みの歴史をたどることで、科学の本質、科学者の人間的側面、人間特有の自然の見方を探る。

レナード ムロディナウ // 著 水谷 淳 // 訳 河出書房新社

『チェロと宮沢賢治 ゴーシュ余聞』

「セロ弾きのゴーシュ」は、音楽好きであった宮沢賢治の代表作。演奏の仕方を誰から教わったのか、いつ演奏したのか。入念な取材と資料の博搜により、楽器チェロと賢治の関わりを探り、賢治文学の新たな魅力に迫る。

横田 庄一郎 // 著 岩波書店

『奔走老人』

定年を前に、妻は先立ち、3人の息子たちは自立。独りで迎えた第二の人生、さあ、何をする? アジアの奥地に飛び込み、220校以上の学校をつくった元商社員の体当たりノンフィクション。

谷川 洋 // 著 ポプラ社

『燃える森に生きる』

世界で最も生物多様性の豊かな森林が広がるスマトラ島。だが、製紙用植林地と油ヤシ農園の大規模開発が進み、同島リアウ州は森林消失が世界一激しい土地になっている。人類共有の財産である熱帯林で進行する現実を報告する。

内田 道雄 // 文 写真 新泉社

『利根川を往く』

茅葺き屋根、苗代で稲の苗をとる図、山里の空に舞う鯉のぼり、木挽きの家族の笑顔…。昭和44年から64年にかけて、5県にわたる利根川沿いの風土とそこに暮らす人々を記録したモノクロ写真集。

塙 紘 // 写真 春風社

『古代の人々の心性と環境 異界・境界・現世』

現代とは異なる暗く静かな風景のなか、古代の人々は樹木・声・ニオイなどに何を感じていたのか。環境を主観的に意味があるものとして捉えていた古代の人々の心性から現代の社会や人間と環境の関係を見つめ直す。

三宅 和朗 // 著 吉川弘文館

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。

